



# 海人 うみひと

## 現場最前線

### 海上からの 道路拡幅工事を指揮

タチバナ工業株式会社 香川営業所  
作業所長・監理技術者

太田 孝氏 (おおた・たかし)

瀬戸大橋の四国側玄関口に当たる香川県坂出市。湾岸の工業地区から隣の高松市に向かう「県道16号高松王越坂出線」は、瀬戸内海に張り出した台地状の山塊「五色台」がつくる香川県特有の地形から、地図の輪郭をなぞるように海沿いを走り、風光明媚な景観を楽しむことができる。しかし台風シーズンにはその表情が一変、大雨による交通規制で陸の孤島へと様変わりしてしまう。2018(平成 30)年7月の西日本豪雨では坂出市王越町で土砂崩れが発生。生活道路の長期にわたる通行止めを余儀なくされた。

県は土砂災害対策事業として、高松王越坂出線の拡幅整備を計画。乃生工区の第1工区と第2工区の2カ所の工事に昨年12月に着手した。第2工区を担当するタチバナ・重成・三興JVの太田所長は「工事件名が示すとおり、道路工事なのですが、陸からの作業はあまりなく、ほとんどが海上作業になります」と工事の特徴を説明する。海沿いを走るこの区間の陸側は切り立った崖地のため、山を削るのではなく海側に道路を拡げる工法が選択されたという。

ただ、現場周辺の海域は比較的浅く、岩礁が多いことから、満潮でないと起重機船が施工箇所近づけない。さらに潮の流れが速く、冬場は時化る日が多いなど厳しい自然条件を克服しながらの作業となる。太田所長は「断面形状は難しいものではないが、施工延長が700mと長いので、潮の状況を見極めながら、工事場所を工夫してロスがないように進めたい」と戦略を練る。工事は、基礎工、被覆石の投入、均し、直立消波ブロックの据え付

け、裏込めの手順で進める。天候に左右されるところが多いことを踏まえ、「台風シーズンが本格化する前に、ある程度のめどが付けられるよう、着実な進捗を図りたい」と方針を示す。

石材は高松市庵治町で産出される「庵治石」をはじめ、小豆島などから調達。トータルで2万㎡近くのボリュームになる。不安定な場所で重量物を扱う作業が続くので、安全管理と作業員の体調管理に気を配る。「石材の上は照り返しが強いので、夏場は特に熱中症には注意が必要」とのこと。現場には仮設の休憩所が用意され、涼が取れるようになっていた。

この作業所は「4週8休」のモデル現場でもある。基本的に土日は作業休止となる。入社31年目を迎える太田所長は「以前と比べると朝もそんなに早くないし、建設業界全体が働きやすい環境になってきましたね」と働き方改革の浸透を実感している半面、「ベテランの石工さん、それに潜水士さんもだんだん確保が難しくなってきた。今後はますます熟練者不足が深刻になりそうです」と不安を吐露する。快適で働きやすい環境の創出に加え、担い手確保に向けた取り組みが待ったなしだ。



台風シーズンが本格化する前がひとつの勝負

【工事件名】  
(防災・安全社会資本整備交付金) 県道高松王越坂出線(乃生東工区) 道路整備工事(第4工区)・(土砂災害対策事業) 県道高松王越坂出線(乃生工区) 道路整備工事(第2工区)  
【工事場所】  
香川県坂出市王越町  
【発注者】  
香川県中讃土木事務所道路一課  
【請負業者】  
タチバナ工業・重成建設・三興組JV  
【工期】  
2021年12月14日～2024年3月22日

